

令和8年2月1日
第539号



鼻高公民館だより

発行：高崎市鼻高公民館 高崎市鼻高町 33-5 電話・FAX 322-9100
まなびネットたかさき HP <http://takasaki.manabi365.net/>



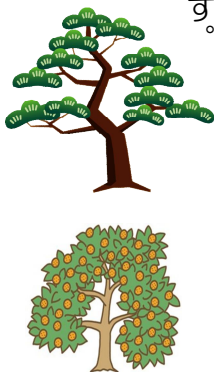
《参加者募集》

プロが教える園芸のコツ

庭木の剪定から果樹の育て方まで

庭木の手入れの基本や剪定の技術、果樹の育て方などを総合的に学びます。

- 【期日】 令和8年2月27日（金）
- 【時間】 午前10時～正午
- 【場所】 鼻高公民館・2階講義室
- 【定員】 20人（市内在住の人）
- 【費用】 無料
- 【持ち物】 筆記用具
- 【講師】 清塚 永久先生



【申込み】 2月2日（月）午前9時から平日の午後5時まで鼻高公民館へ申し込みください。（電話 322・9100）

《参加者募集》

笑う門には福来る 『冬の鼻高寄席』

立川志の彦 独演会

伝統的な話芸の一種である「落語」を生で楽しみ、日本の伝統芸能の良さを再確認しませんか。



- 【期日】 令和8年2月17日（火）
- 【時間】 午前10時～正午
- 【場所】 鼻高公民館・2階講義室
- 【定員】 40人（鼻高地区在住の人）
- 【費用】 無料
- 【出演】 立川志の彦さん（立川流一門の落語家）
- 【申込み】 2月2日（月）、午前9時から平日の午後5時まで鼻高公民館へ申し込みください。（電話 322・9100）

春風コンサート開催 ヴァイオリンとピアノのコンサート

日頃あまり聞くことのないヴァイオリンとピアノの生の演奏会です。ぜひこの機会に公民館に足を運んでお楽しみください。

- 【期日】 令和8年3月19日（木）
- 【時間】 午後1時～2時30分
- 【場所】 鼻高公民館・2階講義室
- 【定員】 30人（市内在住の人）
- 【費用】 無料
- 【出演】 渡会裕之さん（ヴァイオリン・群馬交響楽団所属）
渡会京子さん（ピアノ）
- 【申込み】 2月2日（月）午前9時から鼻高公民館へ申し込みください。（電話：322-9100）

《参加者募集》

Ⅱ 季節の料理教室Ⅱ
家庭でできる人気和菓子

いちご大福と

どら焼きを作る



- 【期日】 令和8年3月10日（火）
- 【時間】 午前10時～午後0時30分
- 【場所】 鼻高公民館・1階実習室
- 【定員】 12人（鼻高地区住民優先）
- 【費用】 750円（材料費）
- 【持ち物】 エプロン、三角巾、マスク、手拭きタオル、筆記用具
- 【講師】 松原祥子先生
- 【申込み】 2月2日（月）3月2日（月）までの平日、午前9時から午後5時までの期間に費用を添えて鼻高公民館へ申し込みください。

裏面もごらんください。



鼻高の四季

Ⅱ 写真で綴る鼻高の宝 ④3

箕輪城攻防戦その2 Ⅱ

室町時代末期の戦国時代、関東の勢力図はどうだったのでしょうか？ 関東一帯は関東管領であった上杉氏が君臨していましたが、弱体化と共に北条・武田等戦国大名の草刈り場になってしまったと云われています。

変換期となったのは小田原の北条氏が、関東管領であった上杉氏の拠点であった江戸城を奪い、河越に（現・埼玉県川越市）退却させたことでした。

その後も近隣の支城を次々に陥落させながら南関東一帯に触手を伸ばし、上杉氏を松山城（埼玉県吉見町）まで退却させてしまったのでした。

河越夜戦

天文14年（1545）駿河の今川と甲斐武田そして

小田原の北条氏の三者間で戦いが始まったのでした。

この機を逃さず関東管領の上杉氏は河越城奪還作戦を起こします。関東管領の威光はまだ残っていたので上杉氏は下野や常陸の城主や豪族に檄を飛ばし動員して、連合軍8万の軍勢で河越城を包囲したのでした。

対する河越城の北条軍は3000騎足らずだったそうです。ここで有名な河越夜戦が起こったのでした。

この時に戦国大名として有名な北条氏康が8000騎の軍勢で援軍に向かい河越城に奇襲を駆けたのでした。8万という圧倒的兵力差で慢心と油断のあった上杉

軍に対し知将の北条氏康は、上杉朝定の本陣だけに的を絞って奇襲を駆け総大将を討ち死にさせたのでした。

ここに名門扇谷上杉氏は滅びます。これが歴史に名高い河越夜戦であり、織田信長の桶狭間の戦いと毛利元就が陶晴賢を破った厳島合

戦と併せて日本の歴史上戦国の3大奇襲合戦と云われるものです。

関東管領

山内上杉憲政の治世

その後、山内上杉家の上杉憲政が関東管領になりましたが、その威光に陰りが見え始めます。上州の地は甲斐の武田や北条氏との国盗り合戦の様相を呈します。

このころ、滋野一族で武田氏に滅ぼされた後、箕輪の長野氏に一時身を寄せていた真田幸隆が武田氏に仕官した後、上州侵略の先方として北上州の吾妻を中心

にその触手を伸ばします。甲斐の武田氏はこのころ北信濃の川中島を舞台に越

後軍との間で合戦を重ねていましたが上州にも矛先を向け始めたのです。これに対し関東管領上杉憲政は、関東で失った威光を回復し上杉離れを防ぐため、武田軍との戦いに赴くのでした。

1547年倉賀野の金井

秀景を大将として和田・安中・大胡・三ノ倉・大戸・山上などからなる連合軍2万で小田井原（長野県御代田）で戦うのでした。俗にいう笛吹（碓氷）峠の合戦です。大敗を喫し関東管領上杉軍は敗走します。

度重なる敗退で権威や求心力は著しく衰退してしまっていた。そして、天文20年（1551）北条氏康が上州平井城の攻略に向かうと上州の諸将に離反者が多くなり、支援するものが少なくなってしまうので、仕方なく上杉憲政は越後の守護代であった長尾景虎（後の上杉謙信）を頼って春日山城に落ち延びるのでした。

関東管領の名は景虎にとっても魅力のあるものだったので、景虎は上杉憲政から一字もらい政虎と名乗り、翌年から三国峠を越え、関東布武の出陣を度重ねるの

でした。

（次号に続く）